

麦づくり情報(No.3)



1. 麦作況情報田の生育概況

1) 調査結果(1月19日調査)

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	概況
川副	サチホゴールデン 6条播き	本年値	12/1	134	6.2	134	1.7	乾燥により平年よりも出芽が遅れたが、苗立ち数は確保できている。出芽が遅れたことにより、平年よりも草丈は低く、葉齢の展開も遅い。
		昨年値 ※参考	12/10	115	8.5	132	2.5	
大和	シロガネコムギ 4条播き	本年値	11/27	173	7.1	213	2.8	
		平年値	11/29	134	8.8	190	3.3	

12月の気温は全体を通して平年よりやや低く推移した。降水量は平年よりも少なかった(平年比34%)。播種作業は例年に比べて早く終了したものの、低温・乾燥の影響により出芽が遅れた圃場が多く、それに伴い生育が遅い傾向にある。

また、1月11日～12日に平野部で2cm程度の積雪があった。

2. 今後の管理

○追肥 ～本葉3～4葉期に実施する～

- 生育が遅れており、降雨の影響から施用時期が遅くなっている。
- 施用時期の目安は、本葉3～4葉期であり、11月中に播種された圃場は、1月中旬～1月下旬ごろ、12月上旬に播種された圃場は1月末ごろになると考えられる。ただし、今年の場合、同じ播種時期でも圃場の条件によって生育ステージが異なっている傾向にあるため、麦の生育を確認しながら実施する。(大豆後圃場は出芽が早く、生育が早い傾向にあるので、小麦圃場の追肥は、時期を逸しないよう気を付ける。大麦圃場は施肥しない。)

※晩播した圃場で、追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した場合は追肥を施用しない。

○麦踏み・土入れ

- 麦踏みは3葉期以降から始める。土壌の碎土(3cm以上のゴロ土)が悪い圃場では出芽期～2葉期の生育初期に行うと、断根等による初期生育を阻害することがあるため行わない。
- 麦踏みは土壌が乾燥した状態で行い、土壌が湿潤な状態では行わない。1月中旬ごろから降雨や降雪が続いたため、圃場が湿潤状態となっているところが多い。表面が乾燥していても土中は湿潤状態の圃場もあるため、必ず圃場の状況を確認する。
- 土入れは、本葉5～6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。

○雑草対策

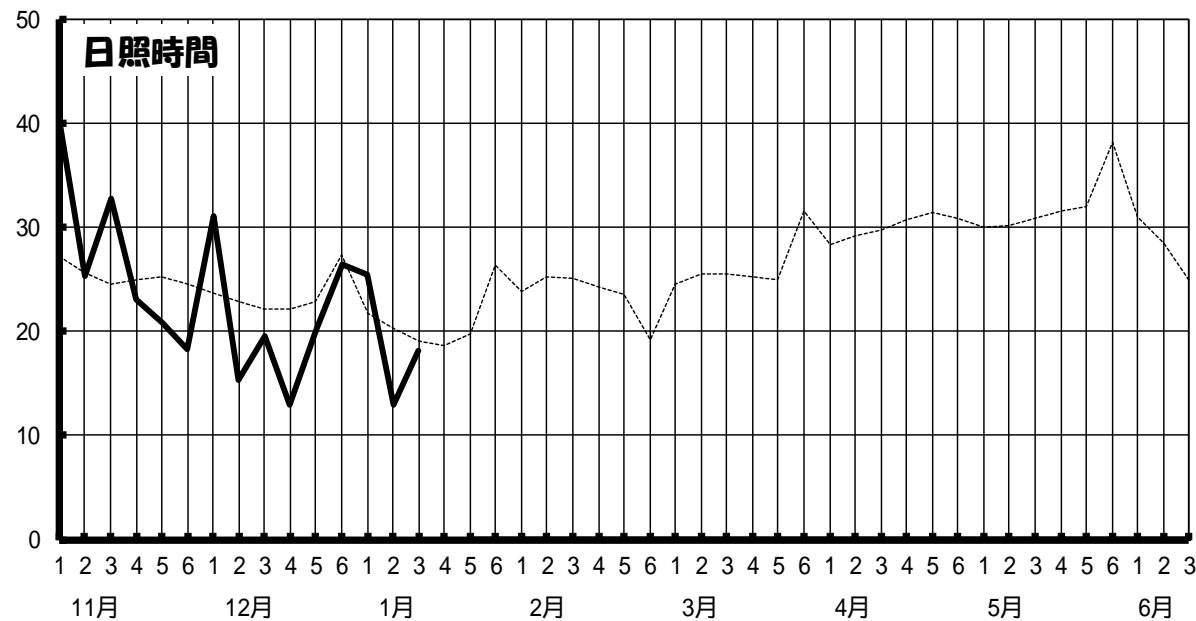
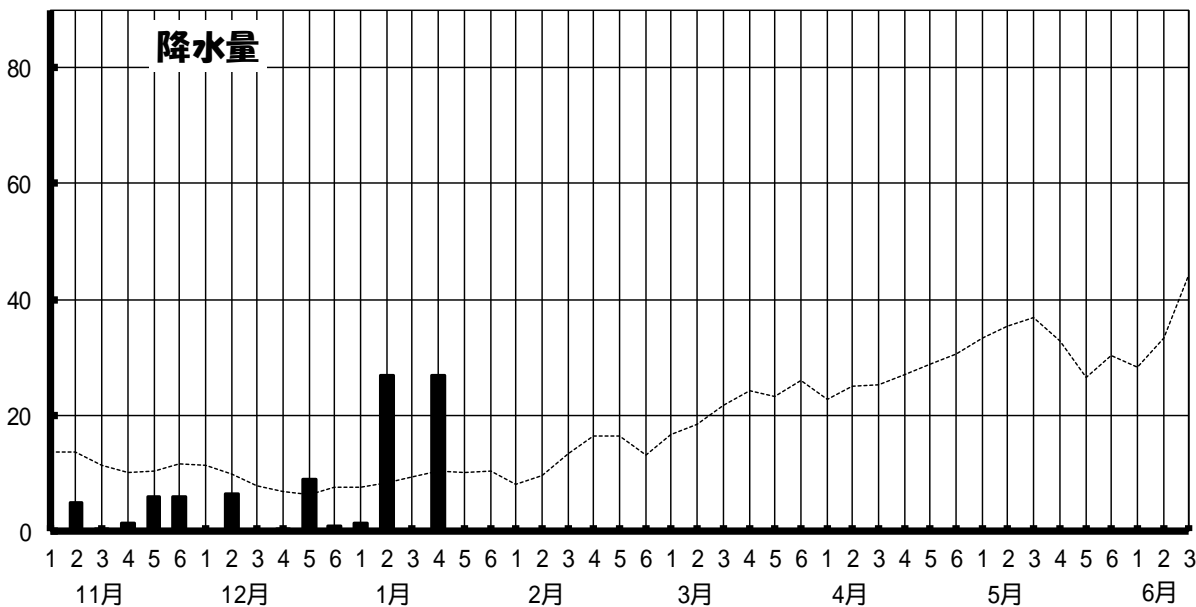
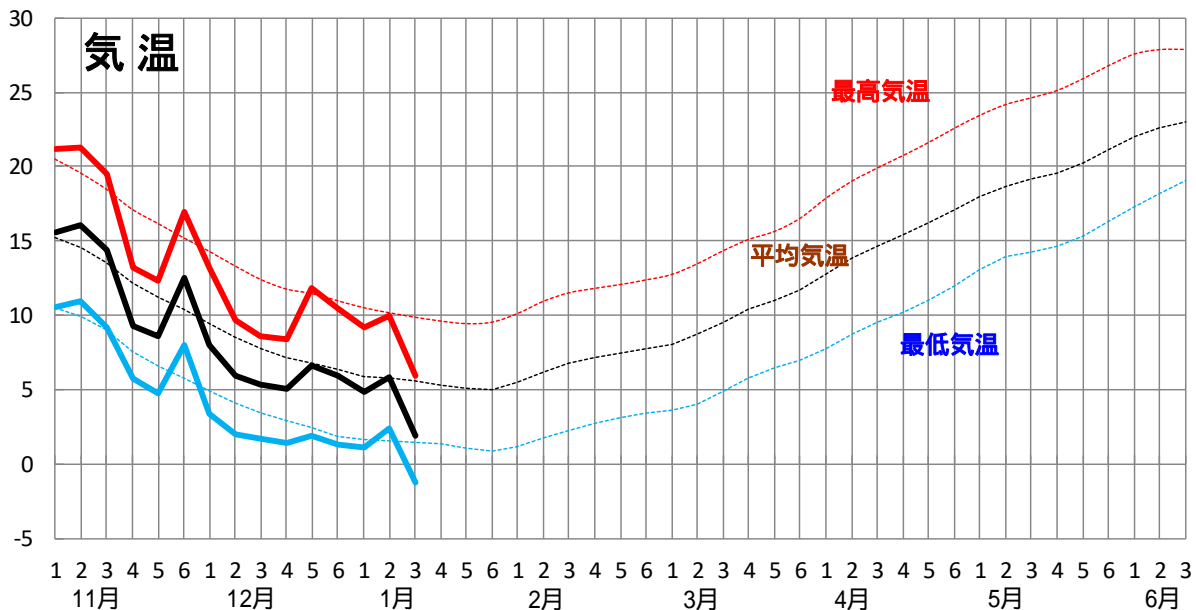
雑草の発生が見られる圃場では、茎葉処理剤を施用する。現在、土壌処理剤の効果が切れてきた圃場も見られ始めているため、除草剤の処理時期を逸しないように早めに対処する。なお、麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

薬剤名(茎葉処理剤)	麦生育ステージ	雑草
ハーモニー75DF水和剤	麦1葉期 ～節間伸長前	スズメノテッポウ 5葉期まで

30年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値